

医療工学技術者の養成

東北大、社会人向け拡充

増倍 厚く 臨床 講義 臨

【仙台】東北大学は医療工学技術者を養成する社会人教育制度「REDEEM（リデーム）プロジェクト」を4月から拡充する。同プロジェクトは企業研究者や技術者に医学の基礎を教え、医療関連産業の発展を促すことが目的。医学系と工学系の教授陣が連携して実施している。09年度からは講義数を倍増し、深い内容を学べるようにする。費収悪化が鮮明になる中で、医療関連産業は成長分野の一つ。企業では生産調整期を利用した人材育成の動きも広まっており、同プロジェクトの活用が期待される。

医療機器開発現場ではこれまで、メーカーよりも医療関係者の地位が圧倒的に高く、このことが業界の発展を阻害してきた。メーカーの技術者が医学や生物学の知識を身に付けることで、医者こ

考えを共有しながら製品開発ができ、工学的な知見を生かした革新的な機器の開発が期待できる。同プロジェクトは04年度から5年間、文部科学省の助成を受けて実施してきた。カリキュラムは

主に講義と実習で構成。受講生は週末に仙台や東京で開かれる講義を受け、その後、東北大医学部で1週間の実習に参加して修了となる。ただし、学位などは与えられない。これまでの5年間で約



医療・工学技術者を養成する社会人教育の実習風景

250人が修了した。受講生は医療機器開発担当者ばかりではなく、大手自動車メーカーや電機メーカーなどの社員が約半数を占めているという。09年度からはプロジェクトの第2期という位置

づけで、修了に必要な講義数を40コマ（1コマ＝90分）に倍増、臨床医学などの分野を強化する。また、09年度からは助成事業ではなく、企業費を有料制にする。実習費を含め、修了までには約

16万円が必要となる。現在09年度の受講生を募集中。問い合わせは東北大REDEEMプロジェクト事務局（022・765・5000、w.redeem.jp/）へ。